



ロギング サービス コマンド

このモジュールでは、ルータでシステムモニタリングのためのシステムロギング (syslog) を設定する Cisco IOS XR ソフトウェア コマンドについて説明します。

ロギングの概念、設定作業、および例については、『*Cisco ASR 9000 Series Aggregation Services Router System Monitoring Configuration Guide*』の「*Implementing Logging Services*」モジュールを参照してください。

アラーム管理およびロギング関連のコマンドについては、『*Cisco ASR 9000 Series Aggregation Services Router System Monitoring Command Reference*』の「アラーム管理およびロギング関連コマンド」モジュールを参照してください。

アラームとロギング関連の概念、設定作業、および例については、『*Cisco ASR 9000 Series Aggregation Services Router System Monitoring Configuration Guide*』の「*Implementing Alarm Logs and Logging Correlation*」モジュールを参照してください。

- [archive-length, 3 ページ](#)
- [archive-size, 5 ページ](#)
- [clear logging, 7 ページ](#)
- [device, 9 ページ](#)
- [file-size, 11 ページ](#)
- [frequency \(ロギング\), 13 ページ](#)
- [logging, 15 ページ](#)
- [logging archive, 17 ページ](#)
- [logging buffered, 19 ページ](#)
- [logging console, 22 ページ](#)
- [logging disable, 24 ページ](#)
- [logging events link-status, 25 ページ](#)
- [logging events link-status \(インターフェイス\), 27 ページ](#)

- [logging facility, 30 ページ](#)
- [logging history, 33 ページ](#)
- [logging history size, 35 ページ](#)
- [logging hostnameprefix, 37 ページ](#)
- [logging localfilesize, 39 ページ](#)
- [logging monitor, 41 ページ](#)
- [logging source-interface, 43 ページ](#)
- [logging suppress deprecated, 45 ページ](#)
- [logging suppress duplicates, 46 ページ](#)
- [logging trap, 48 ページ](#)
- [service timestamps, 50 ページ](#)
- [severity, 52 ページ](#)
- [show logging, 54 ページ](#)
- [show logging history, 59 ページ](#)
- [terminal monitor, 61 ページ](#)

archive-length

ロギングアーカイブにログが保持される期間を指定するには、ロギングアーカイブコンフィギュレーションモードで **archive-length** コマンドを使用します。デフォルトに戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

archive-length*weeks*

noarchive-length

構文の説明

weeks ログがアーカイブに保持される期間（週単位）。範囲は 0 ～ 4294967295 です。

コマンド デフォルト

weeks : 4 週間

コマンド モード

ロギング アーカイブ設定

コマンド履歴

リリース	変更箇所
リリース 3.7.2	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、適切なタスク ID を含むタスクグループに関連付けられているユーザグループに属している必要があります。ユーザグループの割り当てが原因でコマンドを使用できない場合は、AAA 管理者に連絡してください。

archive-length コマンドを使用すると、アーカイブログがアーカイブ内に保持される週の最大数を指定できます。保存期間がこの週数を超えるログは、自動的にアーカイブから削除されます。

タスク ID

タスク ID	操作
logging	読み取り、書き込み

例

次の例は、ログのアーカイブ期間を 6 週間に設定する方法を示しています。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router/CPU0:router(config)# logging archive
RP/0/RSP0/CPU0:router/CPU0:router(config-logging-arch)#archive-length 6
```

archive-size

デバイス上で syslog に割り当てる領域の量を指定するには、ロギング アーカイブ コンフィギュレーション モードで **archive-size** コマンドを使用します。デフォルトに戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

archive-size*size*

noarchive-size

構文の説明

size syslog に割り当てられる領域の量 (MB 単位)。範囲は 0 ~ 4294967295 です。

コマンド デフォルト

size : 20 MB

コマンド モード

ロギング アーカイブ 設定

コマンド履歴

リリース	変更箇所
リリース 3.7.2	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、適切なタスク ID を含むタスク グループに関連付けられているユーザ グループに属している必要があります。ユーザ グループの割り当てが原因でコマンドを使用できない場合は、AAA 管理者に連絡してください。

archive-length コマンドを使用すると、ストレージデバイス上の syslog アーカイブの最大合計サイズを指定できます。このサイズを超過すると、新しいログ用の領域を確保するため、アーカイブ内の最も古いファイルが削除されます。

タスク ID

タスク ID	操作
logging	読み取り、書き込み

例

次の例は、syslog に割り当てる領域を 50 MB に設定する方法を示しています。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router(config)# logging archive
RP/0/RSP0/CPU0:router(config-logging-arch)# archive-size 50
```

clear logging

システム ロギング (syslog) メッセージをロギング バッファからクリアするには、EXEC モードで **clear logging** コマンドを使用します。

clearlogging

構文の説明

このコマンドには、キーワードや引数はありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC

コマンド履歴

リリース

変更箇所

リリース 3.7.2

このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、適切なタスク ID を含むタスク グループに関連付けられているユーザ グループに属している必要があります。ユーザ グループの割り当てが原因でコマンドを使用できない場合は、AAA 管理者に連絡してください。

clear logging コマンドを使用すると、ロギング バッファの中身を空にできます。ロギング バッファが一杯になると、新しいログ メッセージで古いメッセージが上書きされます。

[logging buffered](#), (19 ページ) コマンドを使用すると、ロギング バッファを syslog メッセージの宛先として指定し、ロギング バッファのサイズを設定し、ロギング バッファに送信される syslog メッセージを重大度に基づいて制限することができます。

[show logging](#), (54 ページ) コマンドを使用すると、ロギング バッファに保存されている syslog メッセージを表示できます。

タスク ID

タスク ID

操作

logging

実行

例

次の例は、ロギング バッファの内容をクリアする方法を示しています。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router# clear logging
Clear logging buffer [confirm] [y/n] :y
```

関連コマンド

コマンド	説明
logging buffered, (19 ページ)	ロギングバッファを syslog メッセージの宛先として指定し、ロギングバッファのサイズを設定し、ロギングバッファに送信される syslog メッセージを重大度に基づいて制限します。
show logging, (54 ページ)	ロギングバッファに保存されている syslog メッセージを表示します。

device

syslog のロギングに使用するデバイスを指定するには、ロギング アーカイブ コンフィギュレーション モードで **device** コマンドを使用します。デフォルトに戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

device {disk0| disk1| harddisk}

no device

構文の説明

disk0	disk0 をアーカイブ デバイスとして使用します。
disk1	disk1 をアーカイブ デバイスとして使用します。
harddisk	harddisk をアーカイブ デバイスとして使用します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

ロギング アーカイブ 設定

コマンド履歴

リリース	変更箇所
リリース 3.7.2	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、適切なタスク ID を含むタスク グループに関連付けられているユーザ グループに属している必要があります。ユーザ グループの割り当てが原因でコマンドを使用できない場合は、AAA 管理者に連絡してください。

device コマンドを使用すると、syslog のログを記録する場所を指定できます。ログはディレクトリ <device>/var/log に作成されます。デバイスが設定されていない場合は、他のすべてのロギング アーカイブ設定が拒否されます。同様に、設定済みのデバイスは、他のロギングアーカイブ設定を削除しない限り削除できません。

ハードディスクにはより多くの容量があるため、syslog は harddisk にアーカイブすることを推奨します。

タスク ID	タスク ID	操作
	logging	読み取り、書き込み

例

次の例は、syslog メッセージのログを記録するデバイスとして disk1 を指定する方法を示しています。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router (config)# logging archive
RP/0/RSP0/CPU0:router (config-logging-arch)# device disk1
```

file-size

アーカイブ内のログ ファイルの最大サイズを指定するには、ロギング アーカイブ コンフィギュレーションモードで **file-size** コマンドを使用します。デフォルトに戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

file-size*size*

no*file-size*

構文の説明

size ロギング アーカイブ内のログ ファイルの最大サイズ (MB 単位)。範囲は 1 ~ 2047 です。

コマンド デフォルト

size : 1 MB

コマンド モード

ロギング アーカイブ設定

コマンド履歴

リリース	変更箇所
リリース 3.7.2	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、適切なタスク ID を含むタスク グループに関連付けられているユーザ グループに属している必要があります。ユーザ グループの割り当てが原因でコマンドを使用できない場合は、AAA 管理者に連絡してください。

file-size コマンドを使用すると、アーカイブ内の 1 つのログ ファイルが拡大できる最大限のサイズを指定できます。この制限サイズに達すると、自動的に新しいファイルが作成され、1 つずつ順に大きいシリアル番号が付与されます。

タスク ID

タスク ID	操作
logging	読み取り、書き込み

例

次の例は、ログ ファイルの最大サイズを 10 MB に設定する方法を示しています。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router(config)# logging archive
RP/0/RSP0/CPU0:router(config-logging-arch)# file-size 10
```

frequency (ロギング)

ログの収集期間を指定するには、ロギングアーカイブコンフィギュレーションモードで **frequency** コマンドを使用します。デフォルトに戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

frequency {daily| weekly}
nofrequency

構文の説明

daily	ログは毎日収集されます。
weekly	ログは毎週収集されます。

コマンド デフォルト

ログは毎日収集されます。

コマンド モード

ロギング アーカイブ設定

コマンド履歴

リリース	変更箇所
リリース 3.7.2	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、適切なタスク ID を含むタスク グループに関連付けられているユーザグループに属している必要があります。ユーザグループの割り当てが原因でコマンドを使用できない場合は、AAA 管理者に連絡してください。

frequency コマンドを使用すると、ログを毎日収集するか、または毎週収集するかを指定できます。

タスク ID

タスク ID	操作
logging	読み取り、書き込み

例

次の例は、ログを毎日ではなく毎週収集するように指定する方法を示しています。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router(config)# logging archive  
RP/0/RSP0/CPU0:router(config-logging-arch)# frequency weekly
```

logging

システム ロギング (syslog) サーバ ホストを syslog メッセージの受信者に指定するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **logging** コマンドを使用します。 **logging** コマンドをコンフィギュレーション ファイルから削除して syslog サーバを syslog サーバ ホストのリストから削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

logging {*ip-address* | *hostname*} **vrf**

nologging {*ip-address* | *hostname*} **vrf**

構文の説明

<i>ip-address</i> <i>hostname</i>	syslog サーバとして使用するホストの IP アドレスまたはホスト名。
vrf <i>vrf-name</i>	VRF の名前。最大 32 文字の英数字です。

コマンド デフォルト

syslog メッセージの受信者として設定されている syslog サーバ ホストはありません。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更箇所
リリース 3.7.2	このコマンドが追加されました。
リリース 4.1.0	vrf キーワードが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、適切なタスク ID を含むタスク グループに関連付けられているユーザ グループに属している必要があります。ユーザ グループの割り当てが原因でコマンドを使用できない場合は、AAA 管理者に連絡してください。

logging コマンドを使用すると、メッセージを受信する syslog サーバ ホストを識別できます。このコマンドを複数回発行すると、メッセージを受信する syslog サーバのリストが作成されます。

syslog メッセージを syslog サーバに送信する際、Cisco IOS XR ソフトウェア の機能により syslog メッセージに数値のメッセージ識別子が含まれます。メッセージ識別子は順番に累積します。syslog サーバに送信する syslog メッセージに含まれる数値の識別子は、いずれかのメッセージが失われていないかどうかの確認に役立ちます。

[logging trap, \(48 ページ\)](#) コマンドを使用すると、syslog サーバに送信する syslog メッセージを重大度に基づいて制限することができます。

タスク ID

タスク ID	操作
logging	読み取り、書き込み

例

次の例は、メッセージのログを host1 という名前のホストに記録する方法を示しています。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router (config) # logging host1
```

関連コマンド

コマンド	説明
logging trap, (48 ページ)	syslog サーバに送信する syslog メッセージを重大度に基づいて制限します。

logging archive

syslog のアーカイブの属性を設定するには、グローバルコンフィギュレーションモードで **logging archive** コマンドを使用します。 **logging archive** サブモードを終了するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

loggingarchive

nologgingarchive

構文の説明

このコマンドには、キーワードや引数はありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース

変更箇所

リリース 3.7.2

このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、適切なタスク ID を含むタスク グループに関連付けられているユーザ グループに属している必要があります。ユーザ グループの割り当てが原因でコマンドを使用できない場合は、AAA 管理者に連絡してください。

logging archive コマンドを使用すると、syslog のアーカイブの属性を設定できます。このコマンドを実行すると、ロギング アーカイブ コンフィギュレーション モードに入り、[表 1 : Syslog のアーカイブ用のコマンド属性の設定](#)、[\(17 ページ\)](#) のコマンドの設定が可能になります。



(注) ロギング アーカイブ機能を使用するには、設定の属性を明示的に設定する必要があります。

表 1 : Syslog のアーカイブ用のコマンド属性の設定

コマンド	範囲	説明	推奨される設定
archive-length	<0-4294967295>	週数	4 weeks
archive-size	<1-2047>	サイズ (MB 単位)	20 MB

コマンド	範囲	説明	推奨される設定
device	<disk0 disk1 hddisk>	設定されたデバイスをアーカイブデバイスとして使用します。	hddisk
file size	<1-2047>	サイズ (MB 単位)	1 MB
frequency	<daily weekly>		daily
severity	<alerts critical debugging emergencies errors informational notifications warnings>		informational

タスク ID

タスク ID	操作
logging	読み取り、書き込み

例

次の例は、ロギングアーカイブ コンフィギュレーション モードに入って syslog をロギングするデバイスを `disk1` に変更する方法を示しています。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router(config)# logging archive
RP/0/RSP0/CPU0:router(config-logging-arch)# device disk1
```

logging buffered

ロギング バッファをシステム ロギング (syslog) メッセージの宛先に指定するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **logging buffered** コマンドを使用します。 **logging buffered** コマンドをコンフィギュレーション ファイルから削除してバッファの使用をキャンセルするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

loggingbuffered {*size* | *severity*}

nologgingbuffered {*size* | *severity*}

構文の説明

<i>size</i>	バッファのサイズ (バイト)。範囲は 307200 ~ 125000000 バイトです。デフォルトは 307200 バイトです。
<i>severity</i>	コンソールに表示されるメッセージの重大度。有効な重大度とそれに対応するシステムの状態は、「使用上のガイドライン」の表 2: メッセージの重大度 , (20 ページ) に記載されています。デフォルトは debugging です。

コマンド デフォルト

size : 307200 バイト

severity : **debugging**

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更箇所
リリース 3.7.2	このコマンドが追加されました。
リリース 4.0.0	<i>size</i> 引数の値が 4096 から 307200 に変更されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、適切なタスク ID を含むタスク グループに関連付けられているユーザ グループに属している必要があります。ユーザ グループの割り当てが原因でコマンドを使用できない場合は、AAA 管理者に連絡してください。

logging buffered コマンドを使用すると、メッセージをロギング バッファにコピーできます。ロギング バッファは循環バッファなので、一杯になると古いメッセージが新しいメッセージで上書きされます。このコマンドは、**show logging buffer** コマンドに関連しています。つまり、**logging**

buffered warnings コマンドを実行すると、設定されたレベルよりも下のすべてのレベルのロギング (LOG_ERR、LOG_CRIT、LOG_ALERT、LOG_EMERG、および LOG_WARNING メッセージのログを含む) がイネーブルになります。バッファのサイズを変更するには、**logging buffer size** を使用します。

severity 引数に値を指定すると、その数値およびそれより小さい数値のレベルのメッセージがコンソール端末に表示されます。*severity* 引数に指定できる重大度キーワードの一覧は、[表 2: メッセージの重大度](#)、(20 ページ) を参照してください。

この表は、*severity* 引数に使用できる重大度を示したものです。

表 2: メッセージの重大度

レベル キーワード	レベル	説明	Syslog 定義
emergencies	0	システム使用不可能	LOG_EMERG
alerts	1	ただちにアクションが必要	LOG_ALERT
critical	2	クリティカル状態	LOG_CRIT
errors	3	エラー状態	LOG_ERR
warnings	4	警告状態	LOG_WARNING
notifications	5	正常だが注意を要する状態	LOG_NOTICE
informational	6	単なる情報メッセージ	LOG_INFO
debugging	7	デバッグ メッセージ	LOG_DEBUG

タスク ID

タスク ID	操作
logging	読み取り、書き込み

例

次の例は、バッファに記録される syslog メッセージの重大度を **notifications** に設定する方法を示したものです。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router (config)# logging buffered notifications
```

関連コマンド

コマンド	説明
archive-size, (5 ページ)	ロギング バッファのメッセージをクリアします。
show logging, (54 ページ)	ロギング バッファに保存されている syslog メッセージを表示します。

logging console

重大度別にコンソールに記録されるシステム ロギング (syslog) メッセージのロギングをイネーブルにするには、グローバル コンフィギュレーション モードで **logging console** コマンドを使用します。コンソールのロギングをデフォルト設定に戻す場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

loggingconsole {*severity*| **disable**}

nologgingconsole

構文の説明

<i>severity</i>	コンソールに記録されるメッセージの重大度。これより高い重大度のイベント（数値が小さいイベント）も記録されます。デフォルトは informational です。重大度とそれに対応するシステムの状態の設定は、 logging buffered, (19 ページ) コマンドの「使用上のガイドライン」の 表 2：メッセージの重大度, (20 ページ) に記載されています。
disable	logging console コマンドをコンフィギュレーションファイルから削除し、コンソール端末へのロギングをディセーブルにします。

コマンド デフォルト

デフォルトでは、コンソールへのロギングはイネーブルになっています。

severity : **informational**

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更箇所
リリース 3.7.2	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、適切なタスク ID を含むタスク グループに関連付けられているユーザ グループに属している必要があります。ユーザ グループの割り当てが原因でコマンドを使用できない場合は、AAA 管理者に連絡してください。

logging console コマンドを使用すると、デバッグ メッセージが画面にフラッシュするのを防止できます。

logging console コンソールはコンソール端末用です。 *severity* 引数に値を指定すると、その数値およびそれより小さい数値のレベル（重大度がより高いレベル）のメッセージがコンソール端末に表示されます。

logging console disable コマンドを使用すると、コンソールのロギングを完全にディセーブルにできます。

設定をデフォルトに戻すには、 **no logging console** コマンドを使用します。

show logging, (54 ページ) コマンドを使用すると、ロギング バッファに保存されている syslog メッセージを表示できます。

タスク ID

タスク ID	操作
logging	読み取り、書き込み

例

次の例は、コンソール端末に表示されるメッセージのレベルを **alerts** (1) に変更する方法を示しています（この場合、 **alerts** (1) および **emergencies** (0) が表示されます）。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router(config)# logging console alerts
```

次の例は、コンソールのロギングをディセーブルにする方法を示しています。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router(config)# logging console disable
```

次の例は、コンソールのロギングをデフォルト設定（コンソールはイネーブル、 *severity: informational*）に戻す方法を示しています。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router(config)# no logging console
```

関連コマンド

コマンド	説明
show logging , (54 ページ)	ロギング バッファに保存されている syslog メッセージを表示します。

logging disable

システム ロギング (syslog) メッセージのロギングをディセーブルにするには、グローバル コンフィギュレーション モードで **logging disable** コマンドを使用します。ロギングをデフォルト設定に戻す場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

loggingdisable

nologgingdisable

構文の説明

このコマンドには、キーワードや引数はありません。

コマンド デフォルト

デフォルトでは、ロギングはイネーブルになっています。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース

変更箇所

リリース 3.7.2

このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、適切なタスク ID を含むタスク グループに関連付けられているユーザ グループに属している必要があります。ユーザ グループの割り当てが原因でコマンドを使用できない場合は、AAA 管理者に連絡してください。

logging disable コマンドを使用すると、ロギングを完全にディセーブルにできます。

設定をデフォルトに戻すには、**no logging disable** コマンドを使用します。

タスク ID

タスク ID

操作

logging

読み取り、書き込み

例

次の例は、syslog メッセージをディセーブルにする方法を示しています。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router (config)# logging disable
```


logging events link-status

論理リンクおよび物理リンクのリンクステータス システム ロギング (syslog) メッセージのロギングをイネーブルにするには、グローバル コンフィギュレーション モードで **logging events link-status** コマンドを使用します。リンク ステータス メッセージのロギングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

loggingeventslink-status {disable| software-interfaces}

nologgingeventslink-status [disable| software-interfaces]

構文の説明

disable	物理リンクを含むすべてのインターフェイスのリンクステータス メッセージのロギングをディセーブルにします。
software-interfaces	論理リンクおよび物理リンクのリンクステータス メッセージのロギングをイネーブルにします。

コマンド デフォルト

物理リンクについてのリンクステータス メッセージのロギングはイネーブルになります。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更箇所
リリース 3.7.2	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、適切なタスク ID を含むタスク グループに関連付けられているユーザ グループに属している必要があります。ユーザ グループの割り当てが原因でコマンドを使用できない場合は、AAA 管理者に連絡してください。

リンクステータス メッセージのロギングをイネーブルにした場合、ルータで大量のリンクステータス (アップまたはダウン) のシステム ロギング メッセージが生成される場合があります。

no logging events link-status コマンドを使用すると、物理リンクのリンクステータス メッセージのロギングだけをイネーブルにできます。これはデフォルトの動作です。



(注) 特定のインターフェイスで [logging events link-status \(インターフェイス\)](#) , (27 ページ) コマンドをイネーブルにすると、ここで説明する **logging events link-status** コマンドを使用して設定したグローバル コンフィギュレーションが上書きされます。

タスク ID

タスク ID	操作
logging	読み取り、書き込み

例

次の例は、物理および論理のリンクステータス メッセージのロギングをディセーブルにする方法を示しています。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router(config)# logging events link-status disable
```

関連コマンド

コマンド	説明
logging events link-status (インターフェイス) , (27 ページ)	仮想インターフェイスおよびサブインターフェイスで特定のインターフェイスのリンクステータス システム ロギング (syslog) メッセージのロギングをイネーブルにします。

logging events link-status (インターフェイス)

仮想インターフェイスおよびサブインターフェイスで特定のインターフェイスのリンクステータスシステムロギング (syslog) メッセージのロギングをイネーブルにするには、該当するインターフェイスまたはサブインターフェイスのモードで **logging events link-status** コマンドを使用します。リンクステータスメッセージのロギングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

loggingeventslink-status

nologgingeventslink-status

構文の説明

このコマンドには、キーワードや引数はありません。

コマンド デフォルト

仮想インターフェイスおよびサブインターフェイスについてのリンクステータスメッセージのロギングはディセーブルになります。

コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更箇所
リリース 3.7.2	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、適切なタスク ID を含むタスク グループに関連付けられているユーザグループに属している必要があります。ユーザグループの割り当てが原因でコマンドを使用できない場合は、AAA 管理者に連絡してください。

リンクステータスメッセージのロギングをイネーブルにした場合、ルータで大量のリンクステータス (アップまたはダウン) のシステムロギングメッセージが生成される場合があります。

logging events link-status コマンドは、仮想インターフェイスおよびサブインターフェイスについてのメッセージだけをイネーブルにします。

logging events link-status コマンドを使用すると、バンドル、トンネル、および VLAN の特定のインターフェイスでのロギングをイネーブルまたはディセーブルにできます。

no logging events link-status コマンドを使用すると、リンクステータスメッセージのロギングをディセーブルにできます。



(注) 特定のインターフェイスで **logging events link-status** コマンドをイネーブルにすると、グローバル コンフィギュレーション モードで **logging events link-status**, (25 ページ) コマンドを使用して設定したグローバル コンフィギュレーションが上書きされます。

タスク ID

タスク ID

操作

logging

読み取り、書き込み

例

次の例は、バンドル インターフェイスのロギングを有効にした結果を示しています。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router(config)# int bundle-GigabitEthernet 1
RP/0/RSP0/CPU0:router(config-if)# logging events link-status
RP/0/RSP0/CPU0:router(config-if)# no shutdown
RP/0/RSP0/CPU0:router(config-if)# commit
LC/0/4/CPU0:Jun 29 12:51:26.887 : ifmgr[142]:
%PKT_INFRA-LINK-3-UPDOWN : Interface GigabitEthernet0/4/0/0, changed state to Up
LC/0/4/CPU0:Jun 29 12:51:26.897 : ifmgr[142]:
%PKT_INFRA-LINEPROTO-6-UPDOWN : Line protocol on Interface
GigabitEthernet0/4/0/0, changed state to Up
RP/0/RSP0/CPU0:router(config-if)#
RP/0/RSP0/CPU0:router(config-if)# shutdown
RP/0/RSP0/CPU0:router(config-if)# commit
LC/0/4/CPU0:Jun 29 12:51:32.375 : ifmgr[142]:
%PKT_INFRA-LINK-3-UPDOWN : Interface GigabitEthernet0/4/0/0, changed
state to Down
LC/0/4/CPU0:Jun 29 12:51:32.376 : ifmgr[142]:
%PKT_INFRA-LINEPROTO-6-UPDOWN : Line protocol on Interface
GigabitEthernet0/4/0/0, changed state to Down
RP/0/RSP0/CPU0:router(config-if)#
```

次の例は、ロギングを有効にする場合としない場合の、トンネル インターフェイスのコマンドのシーケンスを示しています。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router(config)# int tunnel-te 1
RP/0/RSP0/CPU0:router(config-if)# commit
RP/0/RSP0/CPU0:router(config-if)# shutdown
RP/0/RSP0/CPU0:router(config-if)# commit
RP/0/RSP0/CPU0:router(config-if)# no shutdown
RP/0/RSP0/CPU0:router(config-if)# commit
RP/0/RSP0/CPU0:router(config-if)# logging events link-status
RP/0/RSP0/CPU0:router(config-if)# commit
RP/0/RSP0/CPU0:router(config-if)# shutdown
RP/0/RSP0/CPU0:router(config-if)# commit
RP/0/RSP0/CPU0:Jun 29 14:05:57.732 : ifmgr[176]:
%PKT_INFRA-LINK-3-UPDOWN : Interface tunnel-te1, changed
state to Administratively Down
RP/0/RSP0/CPU0:Jun 29 14:05:57.733 : ifmgr[176]:
%PKT_INFRA-LINEPROTO-6-UPDOWN : Line protocol on Interface
tunnel-te1, changed state to Administratively Down
RP/0/RSP0/CPU0:router(config-if)# no shutdown
RP/0/RSP0/CPU0:router(config-if)# commit
RP/0/RSP0/CPU0:Jun 29 14:06:02.104 : ifmgr[176]:
%PKT_INFRA-LINK-3-UPDOWN : Interface tunnel-te1, changed
state to Down
RP/0/RSP0/CPU0:Jun 29 14:06:02.109 : ifmgr[176]:
```

```
%PKT_INFRA-LINEPROTO-6-UPDOWN : Line protocol on Interface  
tunnel-tel, changed state to Down
```

次の例は、サブインターフェイスについての同じプロセスを示しています。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router(config)# int gigabitEthernet 0/5/0/0.1  
RP/0/RSP0/CPU0:router(config-subif)# commit  
RP/0/RSP0/CPU0:router(config-subif)# shutdown  
RP/0/RSP0/CPU0:router(config-subif)# commit  
RP/0/RSP0/CPU0:router(config-subif)# no shutdown  
RP/0/RSP0/CPU0:router(config-subif)# commit  
RP/0/RSP0/CPU0:router(config-subif)# logging events link-status  
RP/0/RSP0/CPU0:router(config-subif)# commit  
RP/0/RSP0/CPU0:router(config-subif)# shutdown  
RP/0/RSP0/CPU0:router(config-subif)# commit  
LC/0/5/CPU0:Jun 29 14:06:46.710 : ifmgr[142]:  
%PKT_INFRA-LINEPROTO-6-UPDOWN : Line protocol on Interface  
GigabitEthernet0/5/0/0.1, changed state to Administratively Down  
LC/0/5/CPU0:Jun 29 14:06:46.726 : ifmgr[142]:  
%PKT_INFRA-LINK-3-UPDOWN : Interface  
GigabitEthernet0/5/0/0.1, changed state to Administratively Down  
RP/0/RSP0/CPU0:router(config-subif)# no shutdown  
RP/0/RSP0/CPU0:router(config-subif)# commit  
LC/0/5/CPU0:Jun 29 14:06:52.229 : ifmgr[142]:  
%PKT_INFRA-LINK-3-UPDOWN : Interface  
GigabitEthernet0/5/0/0.1, changed state to Up  
LC/0/5/CPU0:Jun 29 14:06:52.244 : ifmgr[142]:  
%PKT_INFRA-LINEPROTO-6-UPDOWN : Line protocol on Interface  
GigabitEthernet0/5/0/0.1, changed state to Down  
RP/0/RSP0/CPU0:router(config-subif)#
```

logging facility

システムロギング (syslog) メッセージが syslog サーバに送信されるタイプの syslog ファシリティを設定するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **logging facility** コマンドを使用します。 **logging facility** コマンドをコンフィギュレーション ファイルから削除して、あらゆるファシリティ タイプへのメッセージのロギングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

loggingfacility [*type*]

nologgingfacility

構文の説明

type (任意) syslog のファシリティ タイプ。デフォルトは **local7** です。有効な値は、「使用上のガイドライン」の表 3: ファシリティ タイプの説明, (30 ページ) に記載されています。

コマンド デフォルト

type : **local7**

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更箇所
リリース 3.7.2	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、適切なタスク ID を含むタスク グループに関連付けられているユーザ グループに属している必要があります。ユーザ グループの割り当てが原因でコマンドを使用できない場合は、AAA 管理者に連絡してください。

この表は、*type* 引数に使用できるオプションを示したものです。

表 3: ファシリティ タイプの説明

ファシリティ タイプ	説明
auth	許可システム
cron	cron/at ファシリティ

ファシリティ タイプ	説明
daemon	システム デーモン
kern	カーネル
local0	ローカルで定義されたメッセージ用に予約済み
local1	ローカルで定義されたメッセージ用に予約済み
local2	ローカルで定義されたメッセージ用に予約済み
local3	ローカルで定義されたメッセージ用に予約済み
local4	ローカルで定義されたメッセージ用に予約済み
local5	ローカルで定義されたメッセージ用に予約済み
local6	ローカルで定義されたメッセージ用に予約済み
local7	ローカルで定義されたメッセージ用に予約済み
lpr	ライン プリンタ システム
mail	メール システム
news	USENET ニュース
sys9	システムで使用
sys10	システムで使用
sys11	システムで使用
sys12	システムで使用
sys13	システムで使用
sys14	システムで使用
syslog	システム ログ
user	ユーザ プロセス
uucp	UNIX から UNIX へのコピー システム

[logging, \(15 ページ\)](#) コマンドを使用すると、syslog サーバホストを syslog メッセージの宛先として指定できます。

タスク ID

タスク ID	操作
logging	読み取り、書き込み

例

次の例では、syslog ファシリティを **kern** ファシリティタイプに設定する方法を示します。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router(config)# logging facility kern
```

関連コマンド

コマンド	説明
logging, (15 ページ)	syslog サーバホストを syslog メッセージの宛先として指定します。

logging history

ルータおよび簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP) ネットワーク管理ステーション (NMS) の履歴テーブルに送信されるシステム ロギング (syslog) メッセージの重大度を変更するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **logging history** コマンドを使用します。 **logging history** コマンドをコンフィギュレーションから削除して、メッセージのロギングをデフォルトのレベルに戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

logginghistoryseverity

nologginghistory

構文の説明

severity ルータおよび SNMP NMS の履歴テーブルに送信されるメッセージの重大度。これより高い重大度のイベント (数値が小さいイベント) も記録されます。重大度の設定とそれに対応するシステムの状態は、**logging buffered** コマンドの「使用上のガイドライン」の表 2: メッセージの重大度、(20 ページ) に記載されています。

コマンド デフォルト

severity : warnings

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース

変更箇所

リリース 3.7.2

このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、適切なタスク ID を含むタスク グループに関連付けられているユーザ グループに属している必要があります。ユーザ グループの割り当てが原因でコマンドを使用できない場合は、AAA 管理者に連絡してください。

SNMP NMS へのメッセージのロギングは、**snmp-server enable traps** コマンドでイネーブルにします。SNMP トラップは本質的に信頼性がないと同時に、重要性が高く失うわけにはいかないため、少なくとも 1 つの syslog メッセージ (最新のメッセージ) がルータの履歴テーブルに保存されます。

logging history コマンドを使用すると、最後の 500 個の syslog メッセージの履歴が反映されます。たとえば、このコマンドが発行されると、重大度が warning よりも低い、最後の 500 個の syslog メッセージが **show logging history** コマンドの出力に表示されます。

[show logging history](#), (59 ページ) コマンドを使用すると、履歴テーブルを表示できます。このテーブル、テーブルのサイズ、メッセージのステータス、およびメッセージのテキストデータが表示されます。

[logging history size](#), (35 ページ) コマンドを使用すると、履歴テーブルに保存されるメッセージの数を変更できます。

severity 引数に値を指定すると、その数値およびそれより小さい数値のレベルのメッセージが、ルータの履歴テーブルに保存され、SNMP NMS に送信されます。重大度は 0 ~ 7 の数値で示され、1 が最も重要なメッセージ、7 が最も重要度の低いメッセージになります（つまり、数値が小さいほどメッセージの重大度が上がります）。たとえば、**critical** キーワードでレベル **critical** を指定すると、重大度が **critical** (2)、**alerts** (1)、および **emergencies** (0) のメッセージが履歴テーブルに保存され、SNMP NMS に送信されます。

履歴レベルをデフォルトにリセットするには、**no logging history** コマンドを使用します。

タスク ID

タスク ID	操作
logging	読み取り、書き込み

例

次の例は、履歴テーブルおよび SNMP サーバに送信されるメッセージのレベルを **alerts** (1) に変更する方法を示しています（この場合、**alerts** (1) および **emergencies** (0) が送信されます）。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router(config)# logging history alerts
```

関連コマンド

コマンド	説明
logging history size , (35 ページ)	履歴テーブルに保存されるメッセージの数を変更します。
show logging history , (59 ページ)	syslog 履歴テーブルの状態についての情報を表示します。
snmp-server enable traps	SNMP トラップ通知をイネーブルにします。

logging history size

履歴テーブルに保存できるシステム ロギング (syslog) メッセージの数を変更するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **logging history size** コマンドを使用します。 **logging history size** コマンドをコンフィギュレーションから削除して、メッセージの数をデフォルト値に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

logginghistorysizenumber

nologginghistorynumber

構文の説明

number 履歴テーブルに保存できるメッセージの最大数を示す、1 ~ 500 の数値。デフォルト値は 1 件です。

コマンド デフォルト

number : メッセージ 1 件

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更箇所
リリース 3.7.2	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、適切なタスク ID を含むタスク グループに関連付けられているユーザ グループに属している必要があります。ユーザ グループの割り当てが原因でコマンドを使用できない場合は、AAA 管理者に連絡してください。

logging history size コマンドを使用すると、この履歴テーブルに保存できるメッセージの数を変更できます。履歴テーブルが一杯になると (メッセージの数がコマンドで指定した最大数に達すると)、新しいメッセージを保存できるよう、最も古いメッセージがテーブルから削除されます。

[logging history, \(33 ページ\)](#) コマンドを使用すると、履歴ファイルに保存されて SNMP サーバに送信される syslog メッセージの重大度を変更できます。

タスク ID

タスク ID	操作
logging	読み取り、書き込み

例

次の例は、履歴テーブルに保存されるメッセージの数を 20 に設定する方法を示したものです。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router (config)# logging history size 20
```

関連コマンド

コマンド	説明
logging history, (33 ページ)	履歴ファイルに保存されて SNMP サーバに送信される syslog メッセージの重大度を変更します。
show logging history, (59 ページ)	syslog 履歴テーブルの状態についての情報を表示します。

logging hostnameprefix

syslog サーバに記録されるシステム ロギング (syslog) メッセージにホスト名のプレフィックスを付加するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **logging hostnameprefix** コマンドを使用します。 **logging hostnameprefix** コマンドをコンフィギュレーション ファイルから削除してロギングのホスト名プレフィックス定義をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

logginghostnameprefixhostname

nologginghostnameprefix

構文の説明

hostname syslog サーバに送信されるメッセージに表示されるホスト名。

コマンド デフォルト

syslog サーバに記録されるメッセージにホスト名のプレフィックスは追加されません。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更箇所
リリース 3.7.2	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、適切なタスク ID を含むタスク グループに関連付けられているユーザ グループに属している必要があります。ユーザ グループの割り当てが原因でコマンドを使用できない場合は、AAA 管理者に連絡してください。

logging hostnameprefix コマンドを使用すると、ルータから syslog サーバに送信されるメッセージにホスト名プレフィックスを付加できます。このプレフィックスを使用して、さまざまなネットワーク デバイスから特定の syslog サーバに送信されるメッセージを分類することができます。

[logging](#), (15 ページ) コマンドを使用すると、syslog サーバホストを syslog メッセージの宛先として指定できます。

タスク ID

タスク ID	操作
logging	読み取り、書き込み

例

次の例は、ルータから **syslog** サーバに送信されるメッセージに **host1** というホスト名プレフィックスを追加する方法を示しています。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router (config)# logging hostnameprefix host1
```

関連コマンド

コマンド	説明
hostname	ネットワークングデバイスのネットワーク名を指定または変更します。
logging , (15 ページ)	syslog サーバホストを syslog メッセージの宛先として指定します。

logging localfilesize

ローカル ロギング ファイルのサイズを指定するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **logging localfilesize** コマンドを使用します。 **logging localfilesize** コマンドをコンフィギュレーション ファイルから削除して、システムをデフォルトの状態に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

logginglocalfilesizebytes

nologginglocalfilesizebytes

構文の説明

bytes ローカル ロギング ファイルのサイズ (バイト単位)。 範囲は 0 ~ 4294967295 です。 デフォルト値は 32000 バイトです。

コマンド デフォルト

bytes : 32000 バイト

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更箇所
リリース 3.7.2	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、適切なタスク ID を含むタスク グループに関連付けられているユーザ グループに属している必要があります。 ユーザ グループの割り当てが原因でコマンドを使用できない場合は、AAA 管理者に連絡してください。

logging localfilesize コマンドを使用すると、ローカル ロギング ファイルのサイズを設定できます。

タスク ID

タスク ID	操作
logging	読み取り、書き込み

例

この例は、ローカルロギングファイルのサイズを90000バイトに設定する方法を示しています。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router(config)# logging localfilesize 90000
```

関連コマンド

コマンド	説明
show logging , (54 ページ)	ロギングバッファに保存されている syslog メッセージを表示します。

logging monitor

コンソール端末以外の端末回線をシステム ロギング (syslog) メッセージの宛先として指定し、端末回線に送信されるメッセージの数を重大度に基づいて制限するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **logging monitor** コマンドを使用します。 **logging monitor** コマンドをコンフィギュレーション ファイルから削除して、コンソール回線以外の端末回線へのロギングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

loggingmonitor [*severity*]

nologgingmonitor

構文の説明

severity (任意) 端末回線に記録されるメッセージの重大度。これより高い重大度のイベント (数値が小さいイベント) も記録されます。デフォルトは **debugging** です。重大度の設定とそれに対応するシステムの状態は、**logging buffered** コマンドの「使用上のガイドライン」の表 2: メッセージの重大度, (20 ページ) に記載されています。

コマンド デフォルト

severity : **debugging**

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更箇所
リリース 3.7.2	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、適切なタスク ID を含むタスク グループに関連付けられているユーザ グループに属している必要があります。ユーザ グループの割り当てが原因でコマンドを使用できない場合は、AAA 管理者に連絡してください。

logging monitor は端末モニタリング用です。 **logging monitor** コマンドを使用すると、コンソール回線以外の端末回線 (仮想端末など) に表示されるメッセージを制限できます。 *severity* 引数に値を設定すると、その数値およびそれより小さい数値のレベルのメッセージがモニタに表示されます。

terminal monitor, (61 ページ) コマンドを使用すると、現在の端末セッションにおける syslog メッセージの表示をイネーブルにできます。

タスク ID

タスク ID	操作
logging	読み取り、書き込み

例

次の例は、端末回線に記録されるメッセージの重大度を errors に設定する方法を示したものです。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router(config)# logging monitor errors
```

関連コマンド

コマンド	説明
terminal monitor , (61 ページ)	現在の端末セッションにおける syslog メッセージの表示をイネーブルにします。

logging source-interface

syslog サーバに送信されるすべてのシステム ロギング (syslog) メッセージに、そのメッセージがどのインターフェイスを使用してルータを出るかにかかわらず、常に同じ IP アドレスを含めるよう設定するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **logging source-interface** コマンドを使用します。 **logging source-interface** コマンドをコンフィギュレーション ファイルから削除してソース指定を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

logging source-interface type interface-path-id

no logging source-interface

構文の説明

<i>type</i>	インターフェイスのタイプ。詳細については、疑問符 (?) オンラインヘルプ機能を使用します。
<i>interface-path-id</i>	物理インターフェイスまたは仮想インターフェイス。 (注) ルータに現在設定されているすべてのインターフェイスのリストを表示するには、 show interfaces コマンドを使用します。 ルータの構文の詳細については、疑問符 (?) を使用してオンラインヘルプを参照してください。

コマンド デフォルト

ソース IP アドレスは指定されていません。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更箇所
リリース 3.7.2	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、適切なタスク ID を含むタスク グループに関連付けられているユーザ グループに属している必要があります。ユーザ グループの割り当てが原因でコマンドを使用できない場合は、AAA 管理者に連絡してください。

通常、syslog メッセージにはネットワーク デバイスを出るために使用するインターフェイスの IP アドレスが含まれます。 **logging source-interface** コマンドを使用すると、syslog パケットが

どのインターフェイスを使用してネットワーク デバイスを出るかにかかわらず、パケットに特定のインターフェイスの IP アドレスを含めるよう指定できます。

[logging, \(15 ページ\)](#) コマンドを使用すると、syslog サーバ ホストを syslog メッセージの宛先として指定できます。

タスク ID	タスク ID	操作
	logging	読み取り、書き込み

例 次の例は、GigabitEthernet インターフェイス 0/1/0/1 の IP アドレスをすべてのメッセージのソース IP アドレスとして指定する方法を示しています。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router(config)# logging source-interface GigabitEthernet 0/1/0/1
```

関連コマンド	コマンド	説明
	logging, (15 ページ)	syslog サーバ ホストを syslog メッセージの宛先として指定します。

logging suppress deprecated

コンソールへのメッセージのロギングを防止して、コマンドが後方互換されることを示すには、グローバルコンフィギュレーションモードで **logging suppress deprecated** コマンドを使用します。**logging suppress deprecated** コマンドをコンフィギュレーションファイルから削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

loggingsuppressdeprecated

nologgingsuppressdeprecated

構文の説明

このコマンドには、キーワードや引数はありません。

コマンド デフォルト

後方互換コマンドを使用すると、コンソールメッセージが表示されます。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更箇所
リリース 3.7.2	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、適切なタスク ID を含むタスク グループに関連付けられているユーザグループに属している必要があります。ユーザグループの割り当てが原因でコマンドを使用できない場合は、AAA 管理者に連絡してください。

logging suppress deprecated コマンドは、コンソールへのメッセージにだけ影響します。

タスク ID

タスク ID	操作
logging	読み取り、書き込み

例

次の例は、後方互換メッセージの連続したロギングを抑制する方法を示しています。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router(config)# logging suppress deprecate
```

logging suppress duplicates

同じシステム ロギング (syslog) メッセージの複数のコピーを連続してロギングすることを防止するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **logging suppress duplicates** コマンドを使用します。 **logging suppress duplicates** コマンドをコンフィギュレーション ファイルから削除してフィルタリング プロセスをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

loggingsuppressduplicates

nologgingsuppressduplicates

構文の説明

このコマンドには、キーワードや引数はありません。

コマンド デフォルト

重複したメッセージはロギングされます。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース

変更箇所

リリース 3.7.2

このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、適切なタスク ID を含むタスク グループに関連付けられているユーザ グループに属している必要があります。ユーザ グループの割り当てが原因でコマンドを使用できない場合は、AAA 管理者に連絡してください。

デバッグのセッション中に **logging suppress duplicates** コマンドを使用すると、繰り返しのメッセージがすべて表示されない場合があります。分離と解決を試みている問題に関する重要な情報を見落とす可能性があります。こうした場合は、このコマンドをディセーブルにすることを考慮してください。

タスク ID

タスク ID

操作

logging

読み取り、書き込み

例

次の例は、重複するメッセージの連続したロギングを抑制する方法を示しています。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router(config)# logging suppress duplicates
```

関連コマンド

コマンド	説明
logging , (15 ページ)	syslog サーバホストを syslog メッセージの宛先として指定します。
logging buffered , (19 ページ)	ロギングバッファを syslog メッセージの宛先として指定し、ロギングバッファのサイズを設定し、ロギングバッファに送信される syslog メッセージを重大度に基づいて制限します。
logging monitor , (41 ページ)	コンソール端末以外の端末回線を syslog メッセージの宛先として指定し、端末回線に送信されるメッセージの数を重大度に基づいて制限します。

logging trap

システム ロギング (syslog) サーバに記録されるメッセージの重大度を指定するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **logging trap** コマンドを使用します。デフォルトの動作に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

loggingtrap [*severity*]

nologgingtrap

構文の説明

severity (任意) syslog サーバに記録されるメッセージの重大度。これより高い重大度のイベント (数値が小さいイベント) も記録されます。デフォルトは **informational** です。重大度の設定とそれに対応するシステムの状態は、**logging buffered** コマンドの「使用上のガイドライン」の表 2 : メッセージの重大度, (20 ページ) に記載されています。

コマンド デフォルト

severity : **informational**

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更箇所
リリース 3.7.2	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、適切なタスク ID を含むタスク グループに関連付けられているユーザ グループに属している必要があります。ユーザ グループの割り当てが原因でコマンドを使用できない場合は、AAA 管理者に連絡してください。

logging trap コマンドを使用すると、syslog サーバに送信されるメッセージのロギングを、指定したレベルのメッセージだけに制限できます。

logging buffered, (19 ページ) コマンドの「使用上のガイドライン」の表 2 : メッセージの重大度, (20 ページ) に、デバッグ メッセージのレベルに対応する syslog 定義が記載されています。

logging, (15 ページ) コマンドを使用すると、syslog サーバ ホストを syslog メッセージの宛先として指定できます。

タスク ID

タスク ID	操作
logging	読み取り、書き込み

例

次の例は、メッセージを **notifications** (5) およびそれ以下の数値のレベルに制限する方法を示しています。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router(config)# logging trap notifications
```

関連コマンド

コマンド	説明
logging , (15 ページ)	syslog サーバホストを syslog メッセージの宛先として指定します。

service timestamps

システム ロギング (syslog) メッセージおよびデバッグ メッセージのタイムスタンプの形式を変更するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **service timestamps** コマンドを使用します。デフォルトのタイムスタンプ形式に戻す場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
servicetimestamps[[debug|log]{datetime[localtime][msec][show-timezone]|disable|uptime}]
```

```
noservicetimestamps[[debug|log]{datetime[localtime][msec][show-timezone]|disable|uptime}]
```

構文の説明

debug	(任意) デバッグ メッセージのタイムスタンプ形式を指定します。
log	(任意) syslog メッセージのタイムスタンプ形式を指定します。
datetime	(任意) syslog メッセージに日付と時刻のタイムスタンプを付すことを指定します。
localtime	(任意) datetime キーワードと共に使用すると、タイムスタンプにローカル タイムゾーンが含まれます。
msec	(任意) datetime キーワードと共に使用すると、タイムスタンプにミリ秒が含まれます。
show-timezone	(任意) datetime キーワードと共に使用すると、タイムスタンプにタイムゾーン情報が含まれます。
disable	(任意) メッセージにデフォルトの形式のタイムスタンプが付されます。
uptime	(任意) syslog メッセージに、ネットワーク キング デバイスが最後に再起動されてからの経過時間のタイムスタンプが付されるよう指定します。

コマンド デフォルト

デフォルトでは、メッセージに month day hh:mm:ss のタイムスタンプが付きます。

コマンドの **service timestamps debug datetime** 形式および **service timestamps log datetime** 形式に追加キーワードを指定しない場合は、デフォルトでは時刻の形式は協定世界時 (UTC) となり、ミリ秒およびタイムゾーン情報は省略されます。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更箇所
リリース 3.7.2	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、適切なタスク ID を含むタスク グループに関連付けられているユーザ グループに属している必要があります。ユーザ グループの割り当てが原因でコマンドを使用できない場合は、AAA 管理者に連絡してください。

タイムスタンプは、デバッグメッセージまたは syslog メッセージに個別に追加できます。 **uptime** キーワードを使用すると、タイムスタンプは `hhhh:mm:ss` の形式で追加され、ネットワーク デバイスが最後に再起動してからの経過時間が時:分:秒の形式で示されます。 **datetime** キーワードを使用すると、タイムスタンプは `mmm dd hh:mm:ss` の形式で追加され、システムクロックによる日付と時刻が示されます。システムクロックが設定されていない場合、日付と時刻の前にアスタリスク (*) が付き、日時が設定されておらず確認が必要であることが示されます。

service timestamps コマンドの **no** 形式を使用すると、メッセージにデフォルト形式のタイムスタンプが付されます。

このコマンドの **service timestamps** 形式を、キーワードも引数も使用せずに入力した場合は、このコマンドの **service timestamps debug uptime** 形式を発行するのと同じになります。

タスク ID

タスク ID	操作
logging	読み取り、書き込み

例

次の例は、デバッグメッセージのタイムスタンプをイネーブルにし、ネットワーク デバイスが最後に再起動されてからの経過時間を表示する方法を示しています。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router(config)# service timestamps debug uptime
```

次の例は、syslog メッセージのタイムスタンプをイネーブルにし、ローカルタイムゾーンでの現在の日付と時刻をタイムゾーン名とともに表示する方法を示しています。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router(config)# service timestamps log datetime localtime show-timezone
```

severity

ログのフィルタ レベルを指定するには、ロギング アーカイブ コンフィギュレーション モードで **severity** コマンドを使用します。デフォルトに戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

severity {*severity*}

noseverity

構文の説明

severity アーカイブにどのメッセージを記録するかを決める重大度。有効な重大度とそれに対応するシステムの状態は、「使用上のガイドライン」の表 2：メッセージの重大度、(20 ページ) に記載されています。デフォルトは **informational** です。

コマンド デフォルト

informational

コマンド モード

ロギング アーカイブ設定

コマンド履歴

リリース	変更箇所
リリース 3.7.2	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、適切なタスク ID を含むタスク グループに関連付けられているユーザ グループに属している必要があります。ユーザ グループの割り当てが原因でコマンドを使用できない場合は、AAA 管理者に連絡してください。

severity コマンドを使用すると、syslog メッセージのフィルタ レベルを指定できます。重大度が設定した値と同じかそれ以上のレベルの syslog メッセージは、すべてアーカイブに記録されます。

表 2：メッセージの重大度、(20 ページ) は、*severity* 引数に使用できる重大度を示したものです。

タスク ID

タスク ID	操作
logging	読み取り、書き込み

例

次の例は、警告状態およびそれ以上の重大度のメッセージをアーカイブに記録するよう指定する方法を示したものです。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router(config)# logging archive  
RP/0/RSP0/CPU0:router(config-logging-arch)# severity warnings
```

show logging

ロギング バッファの内容を表示するには、EXEC モードで **show logging** コマンドを使用します。

```
showlogging[locallocationnode-id]
[locationnode-id][startmonthdayhh:mm:ss][processname][stringstring][endmonthdayhh:mm:ss]
```

構文の説明

local location node-id	(任意) 指定したローカルバッファからシステム ロギング (syslog) メッセージを表示します。 <i>node-id</i> 引数は、 <i>rack/slot/module</i> の形式で入力します。
location node-id	(任意) 指定したノードから syslog メッセージを表示します。 <i>node-id</i> 引数は、 <i>rack/slot/module</i> の形式で入力します。
start month day hh : mm : ss	(任意) <i>month day mm : hh : ss</i> 引数で指定されたタイムスタンプ以降のタイムスタンプを持つ syslog メッセージを表示します。 <i>month day hh : mm : ss</i> 引数の範囲は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • <i>month</i> : 月。 <i>month</i> 引数の値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> ◦ january ◦ february ◦ march ◦ april ◦ may ◦ june ◦ july ◦ august ◦ september ◦ october ◦ november ◦ december • <i>day</i> : 日。 範囲は 01 ~ 31 です。 • <i>hh</i> : : 時。 範囲は 00 ~ 23 です。 <i>hh</i> 引数の後ろには、コロンを挿入する必要があります。 • <i>mm</i> : : 分。 範囲は 00 ~ 59 です。 <i>mm</i> 引数の後ろには、コロンを挿入する必要があります。 • <i>ss</i> : 秒。 範囲は 00 ~ 59 です。

process name	(任意) 指定したプロセスに関連する syslog メッセージを表示します。
string string	(任意) 指定した文字列を含む syslog メッセージを表示します。
end month day hh : mm : ss	<p>(任意) <i>monthday hh : mm : ss</i> 引数で指定されたタイムスタンプ以前のタイムスタンプを持つ syslog メッセージを表示します。</p> <p><i>month day hh : mm : ss</i> 引数の範囲は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>month</i> : 月。 <i>month</i> 引数の値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> ◦ january ◦ february ◦ march ◦ april ◦ may ◦ june ◦ july ◦ august ◦ september ◦ october ◦ november ◦ december • <i>day</i> : 日。 範囲は 01 ~ 31 です。 • <i>hh</i> : : 時。 範囲は 00 ~ 23 です。 <i>hh</i> 引数の後ろには、コロンを挿入する必要があります。 • <i>mm</i> : : 分。 範囲は 00 ~ 59 です。 <i>mm</i> 引数の後ろには、コロンを挿入する必要があります。 • <i>ss</i> : 秒。 範囲は 00 ~ 59 です。

コマンド デフォルト なし

コマンド モード EXEC

コマンド履歴

リリース	変更箇所
リリース 3.7.2	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、適切なタスク ID を含むタスク グループに関連付けられているユーザ グループに属している必要があります。ユーザ グループの割り当てが原因でコマンドを使用できない場合は、AAA 管理者に連絡してください。

show logging コマンドを使用すると、プロセッサ コンソール上の syslog エラーおよびイベントロギングの状態を表示できます。コマンドからの情報には、イネーブルになっているロギングのタイプおよびバッファのサイズが含まれます。

タスク ID

タスク ID	操作
logging	読み取り

例

次に、**show logging** コマンドに **process** キーワードと *name* 引数を指定した場合の出力例を示します。出力例には、init プロセスに関連する syslog メッセージが表示されています。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router# show logging process init

Syslog logging: enabled (24 messages dropped, 0 flushes, 0 overruns)
  Console logging: level informational , 59 messages logged
  Monitor logging: level debugging, 0 messages logged
  Trap logging: level informational, 0 messages logged
  Buffer logging: level debugging, 75 messages logged

Log Buffer (16384 bytes):

LC/0/1/CPU0:May 24 22:20:13.043 : init[65540]: %INIT-7-INSTALL_READY : total time 47.522
seconds
SP/0/1/SP:May 24 22:18:54.925 : init[65541]: %INIT-7-MBI_STARTED : total time 7.159 seconds
SP/0/1/SP:May 24 22:20:16.737 : init[65541]: %INIT-7-INSTALL_READY : total time 88.984
seconds
SP/0/SM1/SP:May 24 22:18:40.993 : init[65541]: %INIT-7-MBI_STARTED : total time 7.194 seconds
SP/0/SM1/SP:May 24 22:20:17.195 : init[65541]: %INIT-7-INSTALL_READY : total time 103.415
seconds
SP/0/2/SP:May 24 22:18:55.946 : init[65541]: %INIT-7-MBI_STARTED : total time 7.152 seconds
SP/0/2/SP:May 24 22:20:18.252 : init[65541]: %INIT-7-INSTALL_READY : total time 89.473
seconds
```


次に、**show logging** コマンドに **processname** キーワード/引数ペアと **location node-id** キーワード/引数ペアの両方を指定した場合の出力例を示します。出力例には、ノード 0/1/CPU0 から発行された「init」プロセスに関連する **syslog** メッセージが表示されています。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router# show logging process init location 0/1/CPU0

Syslog logging: enabled (24 messages dropped, 0 flushes, 0 overruns)
  Console logging: level informational , 59 messages logged
  Monitor logging: level debugging, 0 messages logged
  Trap logging: level informational, 0 messages logged
  Buffer logging: level debugging, 75 messages logged

Log Buffer (16384 bytes):

LC/0/1/CPU0:May 24 22:20:13.043 : init[65540]: %INIT-7-INSTALL_READY : total time 47.522
seconds
```

次の表に、この出力で表示される重要なフィールドの説明を示します。

表 4 : **show logging** のフィールドの説明

フィールド	説明
Syslog logging	イネーブルの場合、システムロギングメッセージは syslog サーバの役割を果たす UNIX ホストに送信されます。つまり、このホストがメッセージをキャプチャして保存します。
Console logging	イネーブルの場合は、コンソールに記録されたメッセージのレベルおよび数が示されます。そうでない場合は、このフィールドには「disabled」と表示されます。
Monitor logging	イネーブルの場合は、ログメッセージをモニタ端末（コンソールではなく）に送信する基準となる重大度の最低レベル、およびモニタ端末に記録されたメッセージの数が表示されます。そうでない場合は、このフィールドには「disabled」と表示されます。
Trap logging	イネーブルの場合は、ログメッセージを syslog サーバに送信する基準となる重大度の最低レベル、および syslog サーバに記録されたメッセージの数が表示されます。そうでない場合は、このフィールドには「disabled」と表示されます。
Buffer logging	イネーブルの場合は、バッファに記録されたメッセージのレベルおよび数が表示されます。そうでない場合は、このフィールドには「disabled」と表示されます。

関連コマンド

コマンド	説明
clear logging , (7 ページ)	ロギング バッファのメッセージをクリアします。

show logging history

システム ロギング (syslog) 履歴テーブルの状態に関する情報を表示するには、EXEC モードで **show logging history** コマンドを使用します。

showlogginghistory

構文の説明

このコマンドには、キーワードや引数はありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC

コマンド履歴

リリース

変更箇所

リリース 3.7.2

このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、適切なタスク ID を含むタスク グループに関連付けられているユーザ グループに属している必要があります。ユーザ グループの割り当てが原因でコマンドを使用できない場合は、AAA 管理者に連絡してください。

show logging history コマンドを使用すると、syslog 履歴テーブルに関する情報（このテーブルのサイズ、メッセージのステータス、テーブルに保存されているメッセージのテキストなど）を表示できます。簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP) 設定パラメータおよびプロトコル アクティビティも表示されます。

[logging history](#), (33 ページ) コマンドを使用すると、履歴ファイルに保存されて SNMP サーバに送信される syslog メッセージの重大度を変更できます。

[logging history size](#), (35 ページ) を使用すると、履歴テーブルに保存できる syslog メッセージの数を変更できます。

タスク ID

タスク ID

操作

logging

読み取り

例

show logging history コマンドの出力例は、次のとおりです。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router# show logging history

Syslog History Table: '1' maximum table entries
saving level 'warnings' or higher
137 messages ignored, 0 dropped, 29 table entries flushed
SNMP notifications disabled
```

次の表に、この出力で表示される重要なフィールドの説明を示します。

表 5: *show logging history* のフィールドの説明

フィールド	説明
maximum table entries	履歴テーブルに保存できるメッセージの数。 logging history size コマンドで設定します。
saving level	履歴テーブルに保存されて SNMP サーバに送信されるメッセージのレベル (SNMP 通知がイネーブルの場合)。 logging history コマンドで設定します。
messages ignored	重大度が logging history コマンドで指定されたレベルよりも高いため、履歴テーブルに保存されないメッセージの数。
SNMP notifications	適切なレベルの syslog トラップが SNMP サーバに送信されるかどうかのステータス。 syslog トラップをイネーブルまたはディセーブルにするには、 snmp-server enable コマンドを使用します。

関連コマンド

コマンド	説明
logging history, (33 ページ)	履歴ファイルに保存されて SNMP サーバに送信される syslog メッセージの重大度を変更します。
logging history size, (35 ページ)	履歴テーブルに保存できる syslog メッセージの数を変更します。

terminal monitor

現在の端末セッションにおけるデバッグ コマンド出力とシステム ロギング (syslog) メッセージの表示をイネーブルにするには、EXEC モードで **terminal monitor** コマンドを使用します。

terminalmonitor[disable]

構文の説明

disable (任意) 現在の端末セッションにおける syslog メッセージの表示をディセーブルにします。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC

コマンド履歴

リリース

変更箇所

リリース 3.7.2

このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、適切なタスク ID を含むタスク グループに関連付けられているユーザ グループに属している必要があります。ユーザ グループの割り当てが原因でコマンドを使用できない場合は、AAA 管理者に連絡してください。

terminal monitor コマンドを使用すると、現在の端末セッションにおける syslog メッセージの表示をイネーブルにできます。



(注) **logging monitor**, (41 ページ) をイネーブルにしない限り、syslog メッセージは端末回線に送信されません。

terminal monitor disable コマンドを使用すると、現在の端末セッションにおけるロギングメッセージの表示をディセーブルにできます。ロギングメッセージの表示がディセーブルになっている場合は、**terminal monitor** コマンドを使用して、現在の端末セッションにおけるロギングメッセージの表示を再度イネーブルにします。

terminal monitor コマンドはローカルで設定されるものであり、端末セッションの終了後は無効になります。そのため、端末セッションを監視する場合は、そのたびに **terminal monitor** コマンドを明示的にイネーブルまたはディセーブルにする必要があります。

タスク ID

タスク ID	操作
logging	実行

例

次の例は、現在の端末セッションにおける syslog メッセージの表示をイネーブルにする方法を示しています。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router# terminal monitor
```

関連コマンド

コマンド	説明
logging monitor , (41 ページ)	コンソール端末以外の端末回線を syslog メッセージの宛先として指定し、端末回線に送信されるメッセージの数を重大度に基づいて制限します。